



岩江中だより

第34号
 発行日：平成26年12月22日
 発行：三春町立岩江中学校
 電話：0247-62-8290
 FAX：0247-62-8380
 E-mail:school@iwae-jfks.ed.jp

学校経営基本方針『こころ豊かに』～共に語り合い、共に学び合い、共に成長する学校～

【みんなのためにも！ ～寒さの中、除雪、氷割りに精を出してくれました。～】

このところ寒さが増し、先日、数年に一度という冬場の低気圧が北海道を中心におそいました。

本校も、東北地方という例に漏れず、積雪や凍結が見られ、保護者のみなさまには、安全な登下校にご協力いただいているところです。ありがとうございました。



教職員や早くに登校した子どもたちは、登校に注意が必要と判断すると、多くの子もたちや先生方ががスコップを持ち、通学路の除雪や氷割りにがんばってくれます。そのうち、登校してくる子どもたちが増え、雪かき・氷割りの輪（和）はどんどん増えてきます。とてもすばらしい子どもたち、そして、教職員です。ちょっと自慢しました。冬休みも第3学期も、交通安全、特に、冬季特有の事故防止に気をつけて、元気に学校生活を送ろうね。

【租税教室を開催しました！ ～日本の今後にとってとても大切な勉強でした。～】

12月19日（金）には、税理士の加藤先生をお招きし、租税教室が開催されました。1億円の札束を収納したアタッシュケースとともにお出でいただいた加藤先生からは、我々が負っている納税の義務、その大切さが身にしみのお話をいただきました。今の日本の“借金”の状況、それを支える私たちの税金、今後ますます国民一人ひとりにかかる負担は大きくなっていくこと、暮らしの水準を保つためには税金は欠かせないことなどのお話をいただくにつれて、単に公民分野の知識としてだけではなく、日本国民の一人として真剣に考えていかねばならない大切なことだという思いがますます強くなってきました。ご多用の中、お出でいただきました加藤先生に心より感謝申し上げます。



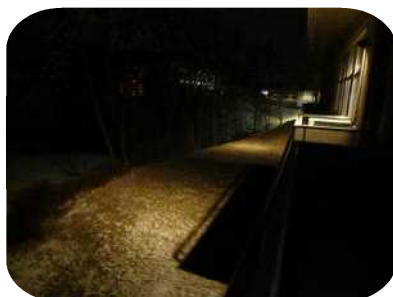
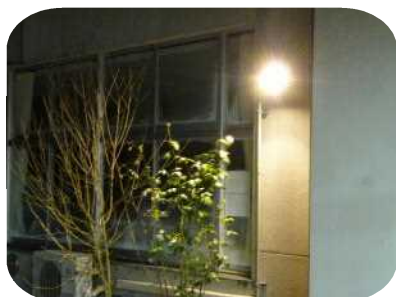
【 “一隅を照らす” ～地域や町教委のみなさまのおかげで、明るくなりました。～】

先日、最終退勤のため、雪の降る中、真っ暗な校舎を懐中電灯片手に巡視していると、校舎の周辺の所々に温かな光がぼ～～と浮かび、降る雪が光に照らされ光り輝いている光景が目に入ってきました。教務主任時代から、教頭、校長と、校舎を巡視する機会はいくらかもありましたが、子どもたちのいない暗い校舎は不気味なものです。そんな中での温かな明かりは、なんだか心をほっとさせてくれました。

それまで所々切れていた外灯を全部交換していただきました。校舎の安全・安心には欠かせない明かりです。保護者や地域の方々、教育委員会のみなさんのご尽力により、全ての外灯が校舎の周囲を温かく照らし出しています。ふっと、以前どこかで読んだ、「一隅を照らす」という言葉を思い出しました。国の宝は何かと問われた人が、それは、決して金銀財宝ではない。学校や家庭、職場など、それぞれが現在置かれている場所で精一杯努力し、全力を尽くすことで、社会

全体が明るく照らされていく。そんなその場その場で光り輝くことのできる人こそが国の宝であると。

生徒昇降口を、1年ホームベース前を、裏庭を、体育館通路を、給食室脇を照らす光。一つ一つの外灯がその持ち場持ち場で一生懸命外を照らし出してくれています。みなさんに支えられ1年を終えようとしている岩江中学校。与えられた持ち場持ち場で、精一杯全力で仕事しなければとふと思った瞬間でした。



【寒さに負けずがんばっています！～部活動、各種大会に全力で取り組んでいます。～】

放課後、体育館などでは、寒さに負けない元気な声が飛び交っています。この時期の努力こそ、来年6月の総合大会のできを左右すると言っても過言ではありません。子どもたちも顧問の先生方も本当によくがんばっています。

寒い時期ではありますが、節目節目に大会があり、先日は、20日、21日は、「みはる駒カップ」というバスケットボールの大会が、20日には、「1年生大会」というバレーボールの大会もありました。バスケットボール部は、金曜日の体育館での練習がそのまま再現されたような場面があり、子どもたちは、その成果を遺憾なく発揮し、勝利を収めていました。バレーボール部は、大会の雰囲気味わいつつ、控えのギャラリ一席では和やかにしていましたが、一旦コートに入り顧問の先生からの指導にはきびきびとした姿を見せていました。寒さに負けずがんばれ！



【凜とした寒さの中で！ ～「冬はつとめて」、清少納言の時代から。～】

岩江中の四季公園、ついこの間まで落ち葉のじゅうたんが敷き詰められていましたが、今は、白い雪が朝日に輝いています。その昔、平安時代には、清少納言が「枕草子」の中で、「冬はつとめて」と書いていました。冬という季節には、凜とした寒さが似合うのかもしれませんが。

寒さに負けず、お体をご自愛ください。

